



海軍公報 第五〇一九號

昭和二十年五月二十二日(火)

海軍大臣官房

命令 達

司令兵第二〇號
當分ノ間九一式傳火筒及四式傳火筒ノ使用區分ヲ左ノ通定メ試
行ス

昭和二十年五月十八日

海軍大臣

兵器名	使用砲種	記	事
九一式傳火筒	十二種七砲以下各種砲	四式時限(複働)信管及三式時 限(複働)信管ト併用差支ナシ	
四式傳火筒	十四種砲以上ノ各種砲	四式時限信管ニ對シテハ必ズ 四式傳火筒ヲ併用スベシ	

司令兵第二二號

大正十四年内令兵第一號海軍砲砲歷取扱規程第二條末尾ニ左ノ
但書ヲ加フ但シ短二十種砲及十四種未滿ノ砲ニ在リテハ砲歷一
冊ヲ作製シ之ヲ終始砲ニ附屬センメ
昭和二十年五月十八日

官房經第二九一號

戰時軍人軍屬旅費特例中左ノ通改正ス

秘海軍公報 第五〇一九號

昭和二十年五月二十二日

昭和二十年五月十五日

第十一條ノ三中「二回」ヲ「四回」
改ム 短距離旅費ニ依ルルガ

(參照) 海軍機密會計法規類集三二九頁

官房經第二九二號

昭和十九年官房經第五三四號中左ノ
昭和二十年五月十五日

二ノ二 隊員公務ニ依リ旅行ヲ命ゼラレタルトキハ鐵道賃(三
等)、船賃(下級額)、車馬賃ノ實費及海軍内國旅費規則第五
表ノ日當、宿泊料又ハ食卓料ノ定額(旅費等級八等以下)以
内ニ於テ實費ヲ標準トシテ總長ノ定ムル定額ニ依リ日當、宿
泊料又ハ食卓料ヲ支給スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和二十年三月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 海軍會計法規類集三〇八ノ二頁

官房機密第二八〇號

海軍幹部練習生教育綱領中左ノ通改正ス

五五九

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

第五條中「海軍病院練習部、」ヲ「海兵團練習部、」ニ改ム

附則

本令ハ昭和二十年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

(内令提要卷二、四八四ノ二頁参照)

要訂正
五月三十日

官房教機密第二八二號

准士官學生教育綱領中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

第三條第六號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

七 法務科

科目	項目	日	記事
一	主要刑事法規		
二	主要行刑法規		
三	一般衛生、衛生検査法、防毒法大要 (行刑衛生ニ必要ナル程度)		
四	庶務ニ關スル諸規程(庶務主任須知 事項、被位、被勳、任用進級、准士官以上 ノ人事其ノ他)		
五	拳銃射撃法		
六	陸職要務(必要事項ノミ)		
七	手旗信號		

(参照) 内令提要卷二、四七七頁

官房教機密第二八二號

法務科練習生教務標準別表ノ通定ム

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

(別表添)

官房需第八九號

昭和十九年官房需第一四二號中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

第一號(イ)ノ三中「飛行豫科練習生、飛行練習生タル下士官及兵
員ニ」ヲ削ル

同號(イ)ノ四ノ次ニ左ノ如ク加フ

(イ)ノ五 第七表ノ二及第八表ノ規定ニ依リ飛行豫科練習生、
飛行練習生タル下士官及兵ニ交付スル軍衣袴、夏衣袴、軍
帽、軍帽前章、帽日覆、カラー及袴鈞ハ之ヲ交付セズ但シ
之ヲ貸與品トシテ同練習生教務終了迄一人ニ付左ノ通貸與
ス

軍衣袴、軍帽、軍帽前章及袴鈞 一個(組)宛

夏衣袴、帽日覆及カラー 二個(組)宛

同號(ハ)ノ二ヲ左ノ如ク改ム

(ハ)ノ二 第八表ノ三ノ規定ニ依リ生徒ニ交付又ハ給與スル軍
衣袴、夏衣袴、軍帽、帽日覆、短劍、劍帶、軍帽前章及肩
章ハ之ヲ交付又ハ給與セズ但シ之ヲ貸與品トシテ入校時一

人ニ付左ノ通貨與シ短劍、軍帽前章及肩章ハ候補生ニ採用セラレタルトキ、其ノ他ノモノハ士官ニ任用セラレタルトキ之ヲ還納セシム

軍衣袴、夏衣袴、軍帽、帽日覆、軍帽 二個(組)宛
前章及肩章 一個宛
短劍及劍帶 一個宛

同號(ハ)ノ二ノ二中「(一)軍衣袴二組ハ一組トス」ヲ「(一)軍衣袴、軍帽、短劍、劍帶、軍帽前章及肩章ハ之ヲ交付セズ但シ之ヲ貸與品トシテ豫備員候補者教育終了迄一人ニ付各一個(組)宛貸與ス」ニ改メ「(四)軍帽、軍帽前章及肩章二個(組)ハ夫々一個トス」ヲ削リ「(五)短劍トス」ヲ削リ「(四)トス」ヲ削リ「(五)短劍トス」ヲ削リ

同號(ハ)ノ二ノ二ヲ「(ハ)ノ三ヲ「(ハ)ノ五トシ「(ハ)ノ二ノ次ニ左ノ如ク加フ

(ハ)ノ三 第八表ノ三ノ二ノ規定ニ依リ還付セシムベキ被服物品ハ前號但書ノ規定ニ依ル貸與品ヲ除クノ外候補生ニ採用セラレタルトキ之ヲ還付セシム

同號(ニ)ニ左ノ如ク加フ

(三) 生徒ニ貸與スル作業服一人ニ付二組一人ニ付三組トス

第三號(ロ)ノ四ノ次ニ左ノ如ク加フ

(ロ)ノ五 生徒、下士官、兵及豫備員候補者ニ交付又ハ貸與スル外套及雨衣ハ褐色色ノモノヲ用フルコトヲ得

同號(ホ)ノ次ニ左ノ如ク加フ

(ハ) 普通防寒被服中防寒外套及防寒帽並ニ特製防寒被服中防寒外套、防寒帽、防寒袴、厚手袋及當番外套ハ褐色色ノモノヲ用フルコトヲ得

秘海軍公報 第五〇一九號 昭和二十年五月二十二日

<p>ノヲ用フルコトヲ得</p> <p>(ト) 航空被服中航空衣袴及航空夏衣袴ハ褐色色ノモノヲ用フルコトヲ得</p> <p>附則</p> <p>從前ノ規定ニ依ル被服物品ハ在庫品限り之ヲ混用スルコトヲ得</p> <p>(參照) 昭和十九年官房審第一四一號ハ被服物品交付等ノ特例ナリ (會計法規類集二卷二六六ノ二頁)</p>				
<p>官房人機密第三五〇號</p> <p>佐世保領守府司令長官ハ左表ニ依リ通信科豫備補習生ヲ採用スベシ</p> <p>昭和二十年五月二十一日</p> <p>海軍大臣</p>				
採用範圍	出願期限	身體検査及口頭試問時期	採用時期	採用員數
現ニ熊本無線電信講習所第一部隊科生徒タル者	昭和二十年五月二十五日	昭和二十年六月中旬	昭和二十年六月下旬	約一九〇名
<p>官房人機密第三五一號</p> <p>吳鎮守府司令長官及佐世保領守府司令長官ハ左表ニ依リ飛行機操縦術中種豫備練習生ヲ採用スベシ</p> <p>昭和二十年五月二十一日</p> <p>海軍大臣</p>				

採用範圍	出願期限	出願場所	身檢検査及口頭試問時期	採用時期	採用員數
一 現ニ愛媛地方航空機乗員養成所ノ生徒タル者	昭和二十年五月十五日	鎮守府	昭和二十年六月中旬	昭和二十年六月下旬	約二百名
二 現ニ長崎地方航空機乗員養成所ノ生徒タル者	同	佐世保鎮守府	同	同	約二百名

官房人機密第三五二號
佐世保鎮守府司令長官ハ左表ニ依リ航海術又ハ機關衝豫備練習生ヲ採用スベシ

昭和二十年五月二十一日

海軍大臣

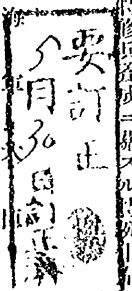
採用範圍	出願期限	身檢検査及口頭試問時期	採用時期	採用員數
現ニ朝鮮總督府交通局長官等海員養成所ノ生徒タル者	昭和二十年五月十五日	朝鮮總督府交通局長官等海員養成所	昭和二十年六月中旬	約六〇名

官房人機密第三五三號

特技兵臨時講習及人事取扱規則及特修兵養成ニ關スル特別中ニノ通改正ス

昭和二十年五月二十一日

一 特技兵臨時講習及人事取扱規則第十二條表中



經理術	主計科	ノ次ニ	法務科	ヲ加フ
衣糧術			法務科	ヲ加フ

二 特修兵養成ニ關スル特別第三條中「官職階」ノ下ニ「法務術ヲ除ク」ヲ、同第十六條表末尾ニ

「法務術」海軍省教育局長（海軍省法務局長ト協議ス）ヲ加フ

（内令提要卷二、一七頁及二七頁參照）

○ 通 牒

海人三機密第一號ノ一三八
昭和二十年五月二十日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

普通科各種練習生ノ選抜及採用等ニ關スル件
中 進

本年五月以降採用スベキ普通科各種練習生（水測術、信號術、氣象術、電信術、暗號術、電測術、潛航術、工作術、軍樂術及衛生術ヲ除ク）ハ昭和十九年官房人機密第一七八九號特修兵養成ニ關スル特別第三條ノ規定ニ拘ラズ下級幹部要員充足ノ爲可成下士官又ハ等級舊キ現役兵（服役延期中ノ者ヲ含ム）中練習生ニ採用スルヲ適當ト認ムル者ヨリ之ヲ優先採用スルモノトシ右ノ以テ充足困難ナル場合ハ應召中ノ下士官及兵（二等兵ヲ除ク）

又ハ新兵教育終了直後ノ一等兵ヨリ採用ノコトニ定メラレ候條可然取計相成度

○雜 款

○從軍加算付與ニ關スル件
 今般官房入第一三八號及恩第六一號(三月十五日秘海軍公報)
 ニ依リ豫備學生、豫備生徒並ニ飛行豫科練習生ニ對シ昭和十九年七月十日以降當隊勤務期間(入院中ヲ除ク)中從軍加算(職務丁)ヲ付與セララルコトト相成候條現貴廳勤務員中該當者ニ對シ左記ニ依リ履歷記註ノ上恩給年敘勳年加算通知等可然處理相成度

記

自昭和十九年八月十四日	三重重空滋賀分遣隊	職務丁	三重重空
至同十九年八月十五日	ニ於テ	滋賀分遣隊	
自昭和二十年八月十五日	於テ	滋賀海軍航空隊	職務丁
至同二十年八月十五日	於テ	滋賀海軍航空隊	滋賀空

(滋賀海軍航空隊)

○開 隊

官衙、部隊名	所在地	開隊、開隊月日	記	事
博多在勤海軍武官府唐津出張所	佐賀縣唐津市西内唐津海運局支局	三月二日	電話 唐津 九〇四番	
高雄方面根據地隊司令部	高雄州岡山郡岡山街大庄	五月一日		
第九〇一海軍航空隊美保派遣隊	島根縣八束郡玉湯村宇湯町	五月五日	郵便物發送先 島根縣八束郡玉湯郵便局 氣付ウ三三四ウ二二二	

秘海軍公報 第五〇一九號

昭和二十年五月二十二日

第一陸上輸送隊

神奈川縣高座郡野海軍航空隊内

五月三日
 旅行艱路 神中線相模大塚驛下車徒歩約六軒(五分) 電話 後津局 八番

大阪海軍工作部

加賀市西成區北番地(舊佐野三三式會社工務部)

五月五日

當分ノ開運輸支部ハ武官府内ニ於テ職務ス 境港驛ヨリ徒歩約十分

滋賀海軍運輸部

島根縣西伯郡葛町榮町

五月五日

當分ノ開運輸支部ハ武官府内ニ於テ職務ス 境港驛ヨリ徒歩約十分

○正 誤
 五月三日秘海軍公報四六七頁上段中翌月要更新豫定機數ノ欄ハ 大東亞戰爭戰歿者故海軍少佐久納好學外諸勇士ノ合同海軍葬儀ヲ來五月三十日一〇〇〇鎮海邑海仁會集會所ニ於テ神式ニ依リ執行ス

○本日軍報秘海軍公報第一三六號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

五六三

(官房教機密第二八二號別表其ノ一)

(昭和二十年五月二十二日海軍公報)

普通科法務練習生教務標準 修業期間六月

備考	補科				本科									科目	項目	日数		
	四 體操、體技	三 武技	三 信號術	二 庶務、人事	二 砲術	九 普通學	八 戒護要領	七 捜査要領	六 懲罰令	五 軍律	四 行刑法令	三 刑事手續法	二 刑罰法令				一 憲法	
		劍道、柔道、銃劍術、游泳術	手旗信號、手先信號	小銃拳銃射撃	陸軍教練	算術	國語	作文	算術	戒護、教化及押送ノ要領、戒具使用法	犯罪捜査ノ要領、犯人逮捕ノ要領	海軍懲罰令大要	支那事變以後ノ海軍軍律大要	海軍監獄令大要、同令施行細則大要	海軍軍法會議法大要	海軍刑法大要	刑法大要其ノ他主要刑罰法令大要	國體、天皇大權、臣民權利義務、司法
	適宜	適宜	適宜	適宜	(一) (二)	一〇	一五	一五	一五	一五	二〇	四	六	一〇	一五	一〇	二〇	四
		一 實施回数ハ標準回数ヲ示ス 二 必要ニ應ジ適宜取捨スルコトヲ得 三 (一)内ハ本科以外ノ時數ヲ示ス				三一	二五	二〇	四	六	一〇	一五	三〇	四				

(官房教機密第二八二號別表其ノ二)

(昭和二十年五月二十二日海軍公報)

科		科										科												
補		本										目	目											
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四											
體操、體技	武技	信號術	砲術	普通學	行刑衛生	行刑作業	行刑戒護、行刑教化	搜查實務ノ概要特ニ取調要領	訴訟書類作成法、書類送達、裁判執行手續	海軍懲罰令	支那事變以後ノ海軍軍律	行刑累進處遇令、海軍假出獄取締細則	海軍監獄令、同令施行細則	刑事手続法令	二 刑罰法令	一 法學通論								
適宜	適宜	(五)	(五)	(一〇)	五	一〇	二	二	六	一〇	一〇	五	八	二	八	八	一三	一五	一〇	二五	二	五	七	
一 實施回数ハ標準回数ヲ示ス 必要ニ應シ適宜取捨スルコトヲ得 (内ハ本科以外ノ時數ヲ示ス)																								一三五

高等科法務術練習生教務標準 修業期間六月

秘海軍公報 第五〇二〇號 昭和二十年五月二十三日

五六六

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲	甲
乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙
丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙	丙
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁
個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個	個

内令第四三〇號
昭和十八年内令第一八三三號別表申
昭和二十年五月十五日

下關防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十七號(機)」ノ次ニ
「第二百三十二號(佐)、第二百三十九號(高)、第二百四十五號(佐)」ヲ加フ

分要請正
五月十五日

基隆防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十九號(高)」ヲ削ル
第一南遣艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百四十五號(佐)」ヲ削ル
第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十二號(佐)」ヲ削ル
(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第四三一號
左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所屬妥シ通達ス
昭和二十年五月十五日

分要請正
五月十五日

船名	特設艦船種別	所管
汽船 第三萬代丸		
同 第二大平丸		
同 第七大平丸		
同 第三高倉丸		
同 第四神威丸		
同 第七鳥海丸		吳鎮守府
同 第八國見丸		
同 第九藏玉丸		
同 第三十四郵船丸		
同 第六十一辰橋丸	特設驅潛艇	
同 第三桐丸		

同	第四大平丸	
同	第六大平丸	
同	第八義宗丸	
同	第十二義宗丸	
同	第十五義宗丸	
同	第十六義宗丸	
同	第四十一郵船丸	
同	第四十二郵船丸	
		佐世保鎮守府

内令第四三二號
昭和十八年内令第二五六六號別表
昭和二十年五月十五日

伊勢防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十二與漁丸(横)」ノ次ニ「蛭子丸(横)、伯州丸(横)、五號宮嶽丸(横)、妙見丸(横)、第十二三池山丸(横)、第七海上丸(横)」ヲ加フ
佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第九白神丸(佐)」ノ次ニ「第三桐丸(佐)、第四大平丸(佐)、第六大平丸(佐)、第八義宗丸(佐)、第十二義宗丸(佐)、第十五義宗丸(佐)、第十六義宗丸(佐)、第四十二郵船丸(佐)、第四十二郵船丸(佐)」ヲ加フ
鎮海防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「津蘭丸(佐)」ノ前ニ「第十三日ノ丸(吳)、第十四日ノ丸(吳)、第二十三日ノ丸(吳)、第二十三日ノ丸(吳)」ヲ加フ

要訂正
海軍
今月
日

五日ノ丸(吳)、第六十二日ノ丸(吳)、第六十三日ノ丸(吳)ヲ加フ
高雄海軍警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十三日ノ丸(吳)」乃至「第六十三日ノ丸(吳)」ヲ削ル
廈門方面特別根據地隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

隊地據根面方海上	
第三	代丸(吳)
第二	平丸(吳)
第一	高丸(吳)
第四	神丸(吳)
第七	海丸(吳)
第八	王丸(吳)
第九	藏丸(吳)
第十四	辰丸(吳)
第十六	辰丸(吳)

第十六警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「蛭子丸(横)」乃至「第七海上丸(横)」ヲ削ル
(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第四三五號
海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ如ク正セラル
昭和二十年五月十五日
横須賀鎮守府ノ部中横須賀海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ
館山海軍航空隊 千葉縣館山市

要訂正
海軍
今月
日

同部中東カリン海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

印支海軍航空隊

横須賀軍港

同部中第一二海軍航空隊及第一三海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

吳鎮守府ノ部中吳海軍航空隊及第三三二海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

佐世保鎮守府ノ部中濠北海軍航空隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第四三六號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件申上ノ通改正ス

昭和二十年五月十五日

要訂正
海軍大臣 官房

樺山航空基地

ヲ削リ

三澤航空基地

ノ次ニ左ノ如ク加フ

樺山航空基地

厚岸航空基地

第九〇三海軍航空隊

館山航空基地ノ項ヲ削ル

父島航空基地ノ項中「第九〇三海軍航空隊」ヲ「父島方面特別根據地隊」ニ、中本航空基地等ノ項中「第九〇三海軍航空隊」ヲ「大津海軍航空隊」ニ改ム

鎮海航空基地

濟州島航空基地

ヲ削リ

指宿航空基地

ノ次ニ左ノ如ク加フ

揮鶴航空基地

濟州島航空基地

鎮海航空基地

旅順航空基地

第九〇一海軍航空隊

臺灣(東港所在ノモノヲ除ク)航空基地

臺灣所在ノ航空基地

改メ東港航空基地ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令兵第二二號

昭和二十年五月二十一日

海軍大臣

假稱四式射爆照準器三型ヲ兵器ニ採用シ四式射爆照準器三型ト呼稱ス

官房軍機密第五一八號

陸海軍電波技術委員會規約申上ノ通改正
昭和二十年五月十六日

要訂正
海軍大臣 官房

別表中副委員長ノ項「海軍技術研究所電波研究部長」ヲ「第二海軍技術廠電波兵器部長」ニ改メ委員ノ部海軍ノ項ヲ左ノ如ク改ム

海	海軍省軍務局第一課長 海軍省軍務局局長 軍令部部員 海軍艦政本部第三部第二課長 海軍航空本部第五部第二課長 第一海軍技術廠部員 第二海軍技術廠總務部第二課長(兼務) 第二海軍技術廠部員
軍	同表中幹事長ノ部海軍ノ項「海軍技術研究所部員」ヲ「第二海軍技術廠總務部第二課長」ニ、幹事ノ部海軍ノ項「海軍技術研究所部員」ヲ「海軍航空本部部員」ニ、海軍電波本部部員「」ヲ「第二海軍技術廠部員」ニ改ム

同表中幹事長ノ部海軍ノ項「海軍技術研究所部員」ヲ「第二海軍技術廠總務部第二課長」ニ、幹事ノ部海軍ノ項「海軍技術研究所部員」ヲ「海軍航空本部部員」ニ、海軍電波本部部員「」ヲ「第二海軍技術廠部員」ニ改ム
(内令提要卷一、三〇ノ六四ノ三頁参照)

官房軍機密第五〇九號
亞號委員會規程中左ノ通告正ス
昭和二十年五月二十日
別表中副委員長ノ欄「海軍航空技術廠長」ヲ「第一海軍技術廠



長」ニ、分科會委員長ノ欄「海軍航空技術廠發動機部長」ヲ「第一海軍技術廠發動機部長」ニ、「海軍航空技術廠飛行機部長」ヲ「第一海軍技術廠飛行機部長」ニ、委員ノ欄

「海軍省軍務局局長」三
「海軍省兵備局第一課長」
「海軍省兵備局局長」二
「海軍省軍需局第二部第一課長」
「海軍省軍需局第三課長」
「海軍航空技術廠部員(科主任)」ヲ「第一海軍技術廠部員(科主任)」ニ、「海軍航空技術廠部員」ヲ「第一海軍技術廠部員」ニ改ム
(内令提要卷一、三〇ノ五二ノ六頁参照)

○ 通 牒

官房機密第八八二號
昭和二十年五月二十一日

海 軍 省 副 官

關係各廳長 殿

航空兵器主管並ニ類別變更手續ニ關スル件通知
今般達第八四號ヲ以テ航空兵器經理規程中主管並ニ類別改正セラレ候處右改正ニ伴フ首題ノ件左記ニ依リ處理ノコトニ定メラレ候
記
一 海軍航空廠(海軍航空廠支廠ヲ含ム)ノ在庫兵器ハ兵器出納補助簿ノ殘高ノ轉記ニ依リ處理ス

二 艦船部隊學校等ニテ供給ヲ受ケタル兵器ハ航空兵器定數表ノ變更又ハ兵備品受拂簿ノ殘高ノ轉記ニ依リ處理シ兵備品供用簿ハ舊主管ノ部ヲ削除シ之ヲ新主管ニテ供用ノコト

三 各種車輛類ハ航空兵器經理規程別表第六條ニ追加セラレタル處之方整理上必要ニ付昭和二十年四月一日現在ヲ左ノ様式ニ依リ海軍航空本部ニ通報ノコト

車輛現狀調 (四月一日現在)

品名	數稱	現有			記事
		良品	損品	計數	

海人二第二四號ノ一
昭和二十年五月二十日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

豫備士官專修科目變更ノ件通知

左記ノ者ハ孰モ六月一日附專修科目變更セラレ候

記

官等	氏名	專修別		電報	新符
		舊	新		
中尉	原 象平	衛所班	艦艇班	ヨテ三五〇ノ三	ヨテ三五〇ノ三
同	岡 根 猛	同	同	ヨテ三七〇	ヨテ三五〇ノ六
同	鈴木 弘	同	同	ヨテ三四〇	ヨテ三五〇ノ元

○ 雜 款

同	磯 崎 安 之	同	同	ヨテ三六〇	ヨテ三六〇ノ三
同	松 平 乘 武	同	同	ヨテ三六〇	ヨテ三六〇ノ三
同	山 内 浩	教育班	對空班	ヨイ三三〇	ヨク 三三〇
同	木 村 三 郎	同	同	ヨテ三七一	ヨテ三七一

○ 廳舍移轉

官 衙 名	移 轉 先	移 轉 月 日	記 事
第二海軍航空廠 厚木補給工場	神奈川県高座郡 澁谷町福田(厚木飛行場南側)	四月一日	旅行願路 東京急行江ノ島線(高座澁谷驛下車)徒歩約五分
吳海軍軍需部關 門司市棧橋通 (向司港驛前)三 非物産ビル三階	同	四月五日	電話 市内 門司 武官府交換 二九七八番

○ 正 誤

五月十六日海軍公報第五〇一三號令達欄内令第三九八號中「呂號第百七」ハ「波號第百七」ノ誤

○本日海軍公報第一三七號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第五〇二號

昭和二十年五月二十四日 海軍大臣

〇令 達

達第一一五號

海兵團練習部規則中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十一日

第四條第一項中「軍樂術練習生、」ノ下ニ「法務術練習生、」

ヲ加フ

第五條中「准士官學生及軍樂術練習生」ヲ「准士官學生、軍樂術練習生及法務術練習生」ニ改メ「特修科軍樂術練習生一年以

内」ノ次ニ「普通科法務術練習生」六月以内」ヲ加フ

第十一條ノ二 海兵團練習部ニ於テ教育スル法務術練習生ヲ普

通科法務術練習生及高等科法務術練習生トス

普通科法務術練習生及高等科法務術練習生ノ教育ハ武山海兵

團ニ於テ之ヲ實施スルモノトス

武山海兵團長ハ必要ニ應ジ普通科法務術練習生及高等科法務

術練習生ヲ横須賀鎮守府軍法會議又ハ横須賀海軍刑務所ニ派

遣シ實習セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル普通科法務術練習生及高等

科法務術練習生ハ其ノ實習ニ關シテハ當該團長ノ指揮ヲ承ク

第十五條ノ二 普通科法務術練習生ハ海軍兵長、海軍上等兵又

ハ進級實役停年ヲ有スル海軍一等兵ニシテ左ノ

ルモノノ中ヨリ之ヲ選抜ス

一 品行方正ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 掌法務兵タルニ適當ナル性能學力ヲ有スト認ムル者

三 海軍特修兵ニ非ザル者

第十五條ノ三 高等科法務術練習生ハ海軍法務兵曹又ハ任用實

役停年ヲ有スル海軍法務兵長ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノ

ノ中ヨリ之ヲ選抜ス

一 品行方正ナル者

二 掌法務ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル性能學力ヲ有スト

認ムル者

三 普通科法務術練習生教程卒業後一年以上勤務ニ服シ其ノ

特技章ヲ有スル者

第十六條及第十七條中「特修科軍樂術練習生」ノ下ニ「並ニ普

通科法務術練習生及高等科法務術練習生」ヲ加フ

第十八條ノ二 普通科法務術練習生及高等科法務術練習生ノ採

用ニ關シテハ横須賀鎮守府司令長官ハ候補者選出期限、採用

者入團期日其ノ他必要ナル事項ヲ定メ他ノ鎮守府司令長官ニ

通知スベシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ基キ艦船部隊其ノ他各部(當

秘海軍公報 第五〇二號 昭和二十年五月二十四日

五七一

1436

該鎮守府在籍ノ下士官及兵ノ勤務スルモノニ在リテハ其ノ所屬ノ如何ヲ問ハズ以下同シノ長ヲシテ練習生志願者ニ就キ身體検査ヲ行ヒ武山海兵團長ノ送付セル試験問題ニ依リ其ノ指定期日ニ於テ學力試験ヲ行ヒ第十五條ノ二又ハ第十五條ノ三ニ該當スル者ヲ選抜シ所見表(別表ノ二)ヲ添へ選出期限内ニ報告セシムベシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ報告ニ基キ更ニ選抜ヲ行ヒ前項ノ所見表ト共ニ採用人名及所屬ヲ武山海兵團長ニ通知シ艦船部隊其ノ他各部ノ長ヲシテ期日内ニ入團セシムベシ

艦船部隊其ノ他各部ノ長ハ前項ノ入團セシムベキ者ニ就キ其ノ出發前ニ於テ更ニ身體検査ヲ行ヒ不合格ノ者アルトキハ之ヲ在籍ノ鎮守府司令長官ニ報告シ同鎮守府司令長官ハ補缺採用ノ手續ヲ行フモノトス

第二十條ノ二 武山海兵團長ハ普通科法務術練習生及高等科法務術練習生中左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ之ヲ免ジ理由ヲ附シ其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ横須賀鎮守府司令長官ニ報告スルト共ニ其ノ前所屬ノ艦船部隊其ノ他各部ノ長及在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ之ヲ通知スベシ

一 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキ者
二 修業成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキ者
三 勤務怠慢品行不正ニシテ練習生タルニ不適當ト認ムル者
四 前各號以外ノ事由ニ依リ練習生タルニ不適當ト認ムル者
武山海兵團長ハ普通科法務術練習生及高等科法務術練習生中

前項ノ規定ニ該當スルコトヲ同期ノ練習生ト共ニ卒業セシムルコト能ハザル者アルトキハ之ヲ次期練習生ニ編入スルカ又ハ同種ノ次期練習生卒業期迄ノ範圍ニ於テ適宜其ノ修業期間ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ之ヲ通知スベシ

第二十四條中「横須賀鎮守府司令長官」ヲ「本人在籍ノ鎮守府司令長官」ニ、「横須賀海兵團長」ヲ「練習生教程ヲ履修シタル海兵團長」ニ改ム

別表ヲ別表第一トシ別表第二ヲ別表ノ如ク加フ

附則

本達ハ昭昭二十年五月十五日ヨリ之ヲ適用ス

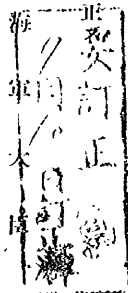
(別表添)

(參照) 諸條例卷一、三六五頁

達第一一六號

海兵團練習部教育綱領中左ノ通改正

昭和二十年五月二十一日



第五章ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第六章 普通科法務術練習生及高等科法務術練習生

第十七條 普通科法務術練習生及高等科法務術練習生ノ教育ハ

軍人精神ヲ涵養シ各種別ニ應ジ必要ナル學術及技能ヲ教授シ法務關係ノ職務ヲ遂行スルニ足ルベキ素養ヲ與フルヲ本旨ト

科	本	日	項	日	記	事
一	憲法	國體、天皇大權、臣民ノ權利義務、司法				
二	刑罰法令	刑法大要、海軍刑法大要其ノ他主要刑罰法令大要				
三	刑事手續法	海軍軍法會議大要				
四	行刑法令	海軍監獄令大要、同令施行細則大要				
五	軍律	支那事變以後ノ海軍軍律大要				
六	懲罰令	海軍懲罰令大要				
七	捜査要領	犯罪捜査ノ要領、犯人逮捕ノ要領				
八	戒護要領	戒護、教化及押送ノ要領、戒具使用法				
九	普通學	國語、作文、算術				
					國語、算術 高等科卒業 程度トス	

第十八條 精神教育ハ軍紀ニ慣熟セシメ心身ヲ鍛鍊シ責任觀念ヲ旺盛ナラシメ法務關係ノ職責ニ對スル自覺ヲ深ムルヲ主眼トシ軍隊教育規則ニ準ジ之ヲ實施スルモノトス

第十九條 學術教育ハ單ニ概念及理論ノ教授ニ陥ルコトナク努メテ具體的且實際的ナラシメ之ヲ實施ニ當リテハ各科目トノ關聯ヲ考慮シ平易ニ理解了得セシムルト共ニ不斷研鑽ノ慣習ヲ培養セシムルコトヲ要ス

第二十條 普通科法務練習生ニ對スル教育ノ程度ハ掌法務兵トシテ其ノ職務遂行上取敢ズ必要ナル捜査及行刑ニ關スル基礎的知識及技能ヲ修得セシムルヲ基準トシ其ノ教科目左ノ如シ

科	本	日	項	日	記	事
一	法學通論	法ノ理念、行政警察ノ概念、私法ノ概要(附) 戒嚴令大要				
二	刑罰法令	刑法、海軍刑法、軍機保護法、治安維持法、其ノ他主要刑罰法令概要				
三	刑事手續法	海軍軍法會議法、刑事交渉法、少年法、恩赦令				
四	行刑法令	海軍監獄令、同令施行細則、行刑累進處遇令、海軍假出獄取締細則				
五	軍律	支那事變以後ノ海軍軍律				
六	懲罰令	海軍懲罰令				
七	捜査要領	訴訟書類作成法、書類送達、費列執行手續				
八	戒護要領	捜査要領ノ概要特ニ取調要領				
九	行刑要領	行刑戒護、行刑教化、行刑作業				
十	普通學	國語、作文				
					國語ハ中 學第四年 程度トス	

第二十一條 高等科法務練習生ニ對スル教育ノ程度ハ普通科法務練習生教程ト連絡ヲ保テ法務科重要配置ノ業務遂行ニ必要ナル學術及技能ヲ修得セシムルヲ基準トシ其ノ教科目左ノ如シ

科	補
十	砲術
九	應務人事
八	信號術
七	武體操
六	體操體技
五	劍道、柔道、銃劍術、游泳術
四	手旗信號法、手先信號法
三	執銃教練、小銃拳銃射擊
二	必要ニ應ジ 適宜取捨ス ルコトヲ得

補	工 砲 術	執銃教練、小銃拳銃射擊	必要ニ應ジ
	工 信 號 術	手旗信號法、手先信號法	適宜取捨ス
科	工 武 道	劍道、柔道、銃劍術、游泳術	ルコトヲ得
	工 體 操、體 技		

附 則

本達ハ昭和二十年五月十五日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 諸例則卷三、八四八ノ一七頁

達第一一八號

海軍工員戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十三日

海 軍 大 臣



第一條中「第一條ニ掲グル地(以下戰地ト稱ス)」ヲ「第一條ニ規定スル地域(以下單ニ戰地又ハ準戰地ト稱ス)」ニ、「又ハ戰地」ヲ、「戰地若ハ準戰地ニ」ニ、「若ハ戰時編制」ヲ「又ハ戰時編制」ニ改ム

第二條中「及臨時手當」ヲ、「臨時手當及臨時家族手當(加給ヲ含ム以下之ニ同ジ)」ニ、「戰地ト戰地外トノ間又ハ戰地」ヲ「戰地若ハ準戰地ト戰地外若ハ準戰地外トノ間又ハ戰地若ハ準戰地」ニ改ム

第三條及第四條中「及臨時手當」ヲ、「臨時手當及臨時家族手當」ニ改ム

第六條及第二十七條中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

第八條第一項中「及臨時手當」ヲ、「臨時手當及臨時家族手當」

ニ、同條第四項中「戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル各部」ヲ「海軍戰時特例給與規則第二條ノ三及第二條ノ四ニ規定スル各部」ニ改メ同條第五項中「及臨時家族手當」ヲ削ル

第十八條第一項中「第十一條ノ四」ヲ「第十一條ノ五」ニ、同條第二項中「第十九條、第二十條」ヲ「第十七條ノ二、第十七條ノ三、第十九條」ニ改ム

第二十條ノ二ヲ削ル

第二十條ノ三中「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加ヘ同條ヲ第二十條ノ二トス

第二十一條第一項中「臺灣、伊豆諸島、種子島以南ノ陸南諸島又ハ琉球諸島」ヲ「又ハ準戰地」ニ改メ同條第二項中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

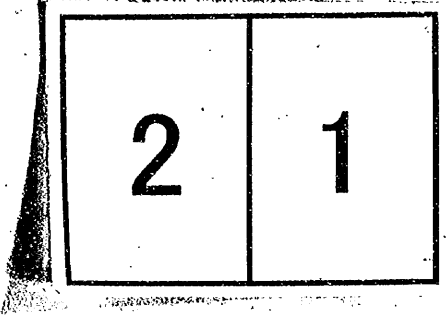
第二十一條ノ二 派遣手當ノ支給ヲ受ケタル者其ノ事由發生後一年ヲ經過シ再ビ前條第一項又ハ第二項ノ規定ニ該當スルトキハ更ニ同條ノ規定ニ依ル派遣手當ヲ支給ス

第二十三條及第三十二條中「戰地ニ在ラザルモ特別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル各部」ヲ「海軍戰時特例給與規則第二條ノ三及第二條ノ四ニ規定スル各部」ニ改ム

第二十八條中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ、「戰地外」ノ下ニ「又ハ準戰地外」ヲ加フ

第三十條中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加ヘ「昭和十六年官房機密第一二六三九號第一項第一號乃至第三號ニ該當スル各

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	官房軍機密第244号別表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

部」ヲ「海軍戰時特例給與規則第二條ノ三及第二條ノ四ニ規定スル各部」ニ改ム

第三十一條 工員戰地ニ於テ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ治療費ハ之ヲ官費支辨トス

前項ノ規定ハ準戰地ニ在ル工員ニ付之ヲ準用スルコトヲ得

第三十三條中「第一條第一項前段ノ規定ニ該當スル工員」ヲ「工員戰地ニ於テ」ニ改ム

第三十六條中「又ハ戰地」ノ下ニ「若ハ準戰地」ヲ加フ

第一表ノイヲ別表ノ如ク改ム

第一表ノロ中「同二六度以北ノ本邦（千島諸島及小笠原諸島ヲ除ク）」ヲ「同三〇度五五分以北ノ本邦（千島諸島及第二海域ニ在ル地域ヲ除ク）」ニ、「同二六度以南」ヲ「同三〇度五五分以南」ニ、「及北緯五〇度以南ノ亞細亞蘇聯領沿岸」ヲ「北緯五〇度以南ノ亞細亞蘇聯領沿岸及第二海域ニ在ル地域沿岸」ニ、「同十割」同十二割」ヲ「同十二割」同十五割」同九割」ニ改ム

第二表第二欄中「同二六度以北ノ本邦（千島諸島及小笠原諸島ヲ除ク）」ヲ「同三〇度五五分以北ノ本邦（千島諸島及第二海域ニ在ル地域ヲ除ク）」ニ改ム

同表第三欄中「同二六度」ヲ「同三〇度五五分」ニ、「第二海域及北緯五十度以南ノ千島諸島沿岸、小笠原諸島沿岸、支那沿岸、第三海域」ヲ「及第三海域」ニ改ム

秘海軍公報 第五〇二二號 昭和二十年五月二十四日

同表第四欄中「北緯五十度以北ノ千島諸島沿岸、南洋群島沿岸、新南群島沿岸、北緯五十度以北ノ亞細亞蘇聯領沿岸及第四海域」ヲ「千島諸島沿岸、小笠原諸島沿岸、南洋群島沿岸、新南群島沿岸、支那沿岸、北緯五十度以北ノ亞細亞蘇聯領沿岸、第三海域及第四海域」ニ改ム

第四表備考第三號ヲ左ノ如ク改ム

三 本表ノ被服物品ハ通常物品トス但シ制式下士官兵ニ同ジキモノハ兵備品ヲ以テ繰替貸與スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和二十年五月十六日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(別表添)

官房軍第二九六號

高等軍法會議首席法務官及東京軍法會議首席法務官ハ必要ニ應ジ部下法務科特務士官准士官下士官及兵ヲシテ海軍省法務局ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

昭和二十年五月十五日

海軍大臣

官房軍機密第五一三號

三井造船株式會社根造船所ニ於テ製造ノ「コンクリート」貨物船一隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和二十年五月二十日

五七五

海軍大臣

船名	船種	所屬	定數別	記事
第四武智	輸送船 (1,500噸)	大阪海軍運輸部	臨時附屬	

○雜 款

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始 月日	電話	電 話 記 事
波號第三四潜水 艦艇裝具事務所	佐世保海軍工廠内	五月二日		
波號第三五潜水 艦艇裝具事務所	佐世保海軍工廠内	五月三日	九五二六	
第五百四設營隊	横須賀海軍施設部内	五月五日		
第二海軍衣糧廠 久留米出張所	福岡縣久留米市久留 米工業試験所内	五月五日		九州地區ニ於 ケル被服糧食 生産管理

○學生入校期

昭和二十年官房人機密第二五〇號ニ依ル本校第三十八期特修科
(機雷)學生ハ六月七日(木)始業ニ付其ノ前日迄ニ着校セシメ
ラレ度

(海軍對潜學校)

(達第一一五號別表第二)

(昭和二十年五月二十四日秘海軍公報)

軍艦		表見所者補候生習練術務法科(等高)期(三)第									
所轄見長	科長所見	名籍所	分隊長又ハ分隊長職務執行者所見	試験成績	勤務日數	練習(新卒)業年日成	身檢査(官醫科士)	順選	志望	志望	志望
昭和 年 月 日			勤務 (評語ヲ以テ記入ス)	各試験科目毎ニ百分比ヲ記入ス	高等科練習生候補者ニ在リテハ普通科特技章付與以後ノ勤務日數ヲ記入ス	左例ノ如ク記入ス 〔二〇、三、一〇普法〕	身長	志望	官職	氏名	氏名ニハ振假名ヲ附ス ノ前月末日迄ノモシタルヲ記入ス
(艦長 某)	(航海長 某)	(分隊長 某)	性行	檢定成績	現役満期年月日	現官職ニシタル年月日	志望	志望	志望	志望	志望
			技 能	現配	賞 罰	任用進級停年	志望	志望	志望	志望	志望
			(學術、技藝、武技、體技其ノ他) 特ニ長ズト認ムルモノヲ記入ス	(現配以外ニ適任ト認ムル配) 置アルトキハ其ノ旨附記ス	(罰ハ朱書ス)		(當該期ヲ回算) 入シタルヲ記入ス	入籍	入籍	入籍	入籍
							前ノ入籍	前ノ入籍	前ノ入籍	前ノ入籍	前ノ入籍
							入籍	入籍	入籍	入籍	入籍
							入籍	入籍	入籍	入籍	入籍

(所見ハ海軍考課表規則ニ準ジ之ヲ記入ス)

(達第一七號別表)

(昭和二十年五月二十四日海軍公報)

第三表ノ四 豫備員候補者航海加給

豫備員候補者	第一欄		第二欄		第三欄		第四欄	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙
豫備員候補者	一五	二〇	二〇	二五	三〇	四〇	五〇	一〇〇
海軍豫備員任用臨時特例ニ依リ採用ノ者	一〇	一五	一五	二〇	二〇	三〇	三〇	六〇
徒生	八	一〇	一〇	一五	一五	二五	二五	四〇
其ノ他	五	八	八	一〇	一〇	二〇	一五	三〇

備考

- 一 五百噸未満ノ在役艦船及定繋港外ニ在ル五百噸未満ノ豫備艦船ノ乗員並ニ潜水艦ノ乗員ニハ乙、其ノ他ノ艦船乗員ニハ甲ノ額ヲ支給ス
- 二 朝鮮臺灣又ハ關東州ニ在ル港ヲ定繋港トスル艦船又ハ同地沿岸ニ派遣セラレタル艦船乗員ノ航海加給ノ額第三表ノ規定ニ依ル各其ノ地ノ加給ノ額ヨリ少キトキハ其ノ加給ニ相當スル額ヲ航海加給トシテ支給ス
- 三 本表中第一欄乃至第五欄ハ給與令第五表航海加俸表ノ區分ニ依ル

(達第一七號別表)

(昭和二十年五月二十四日海軍公報)

第九表 (第八十四條第二項ニ依リ下士官兵演習召集又ハ補缺召集ノトキ交付スル定數)		軍樂兵曹、軍樂兵		法務兵曹、法務兵	
品名	下士官 (軍樂兵曹及 法務兵曹ヲ 除ク)	兵 (軍樂兵及 法務 兵ヲ除ク)	軍樂兵曹、軍樂兵	法務兵曹、法務兵	
軍衣袴	一	一	一	一	一
夏衣袴	一	一	一	一	一
略衣袴	一	一	一	一	一
外套	一	一	一	一	一
雨衣	一	一	一	一	一
軍帽	一	一	一	一	一
略帽	一	一	一	一	一
中着袴	一	一	一	一	一
夏着袴	一	一	一	一	一
襦袢	一	一	一	一	一
夏襦袢	一	一	一	一	一
脚絆	一	一	一	一	一
夏脚絆	一	一	一	一	一
襟飾	一	一	一	一	一
カフス	一	一	一	一	一
手袋	一	一	一	一	一
袴釣	一	一	一	一	一
帶皮	一	一	一	一	一
半靴	一	一	一	一	一
靴下	一	一	一	一	一
短劍	一	一	一	一	一
劍帶	一	一	一	一	一
刀緒	一	一	一	一	一
刀帶	一	一	一	一	一
蒲團	一	一	一	一	一
衣襖	一	一	一	一	一
軍帽前章	一	一	一	一	一
軍帽後章	一	一	一	一	一

備考
一 短期間召集ノ場合ハ本表ノ範圍内ニテ季節ニ應ジ必要ナル被服物品ノミヲ交付スルコトヲ得但シ半靴ニ限り四月以内召集ノ場合ニハ一組ヲ交付スルモノトス
二 本表ノ被服物品ハ古品ヲ交付シ古品ナキトキニ限り新品ヲ交付ス

(達第一七號別表)

(昭和二十年五月二十四日海軍公報)

備考	第七表ノ二 (第八十三條ノ九又ハ第八十四條第二項ニ依リ下士官兵(充員召集中)ノ者ヲ含ミ演習召集又ハ補給召集中ノ者ヲ除ク)ニ交付スル定數																		
	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	
陸軍教化隊入隊中ノ兵ニハ本表被服物品ノ内蒲團履ヲ交付セズ	手拭	二	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章
軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	一	軍帽前章	

(達第一七七號別表)

第十二表

(第八十九條ニヨリ下士官兵現役ヲ離レ又ハ
歸休ヲ命ゼラレタルトキ給與スル定數)

(昭和二十年五月二十四日海軍公報)

備考	臂	軍帽	靴	半	カ	帶	袴	襟	袴	中	襦	帽	軍	軍	品
一 本表ノ被服物品ハ凡テ所持定數ノ内ヨリ給與ス	章	前章	下	靴	1	皮	釣	飾	下	襟	袴	覆	帽	袴	目
	一														下士官 (軍樂兵及法務兵ヲ除ク)
	着														兵 (軍樂兵及法務兵ヲ除ク)
	分	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	軍樂兵曹、軍樂兵
	同														法務兵曹、法務兵
	上														
	同														
	上														

(達第二一八號別表)

(昭和二十年五月二十四日海軍公報)

考 備	準 戰	戰 地	區 分	
			標 準	給 率
一 増給ハ標準額ノ豫算ヲ以テ勤務ノ優劣ニ應ジ最高最低ノ範圍内ニ於テ之ヲ支給スルモノトス但シ最高及最低ノ増給ハ勤務應ニ勤務ノ日又ハ到着ノ日ヨリ該應退應ノ日迄ノ期間之ヲ支給ス 二 準戰地ニ在リテハ廳長必要アリト認ムルトキハ所屬長官ノ認許ヲ得テ十二割以下ノ増給ヲ支給スルコトヲ得	給料ノ十五割	給料ノ二十割	最 高	最 低
	同	同	同	同
	同	同	同	同

第一表ノ(イ)増給

秘

海軍公報

第五〇二三號

司令官

○軍令

朕海軍總隊司令部中ヲ改定シ之方施行ヲ命ス

御名 御璽

昭和二十年五月二十四日

參謀

海軍總隊司令部中左ノ通改正ス

第四條第一項中「聯合艦隊、支那方面艦隊」ヲ「各艦隊」ニ改ス

○令 達

内令第四三三號

本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

昭和二十年五月十五日

第百六十五號
海軍大臣
昭和二十年五月十五日

内令第四三四號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラレ

昭和二十年五月十五日

海軍大臣
昭和二十年五月十五日

第二監視艇隊ノ項中「第百九十一號哨戒特務艇」ノ上ニ「第百

秘海軍公報 第五〇二三號 昭和二十年五月二十五日

昭和二十年五月二十五日
海軍大臣

受領
20.6.17
無印

六十五號哨戒特務艇、」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

官房軍機密第五二五號

昭和二十年官房軍機密第二四四號中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十二日

海軍大臣

別表中海軍施設本部ノ項「四」ヲ「四」ニ改ム

(参照) 昭和二十年官房軍機密第二四四號ハ下士官及兵ノ派遣勤務ヲ定ムル件ナリ

○通 牒

官房軍機密第五二七號

昭和二十年五月二十三日

海軍次官

關係各廳長 殿

地方施設等取得ニ伴フ陸海軍調節ニ關スル件
照會

首題ノ件別紙ノ通陸軍次官ヨリ申越アリタル處既ニ同要領ニ準
シ取得シツアルコト存ズルモ地方行政協議會ヲ介スルコト
ニ關シ一層善處方取計相成度

五七七

(別紙)

陸密第二五五五號

地方施設等取得ニ伴フ陸海軍節調ニ關スル件

通牒

昭和二十年五月七日

陸軍 次官

海軍 次官 殿

最近防衛分散竝ニ内地兵備等ノ強化徹底ニ伴ヒ地方施設等ノ取得利用ニ就テハ陸海軍共逐次増大ノ一途ヲ辿リツツアル處地方ニ依リテハ往々ニシテ兩者競合ヲ來タシ相互計畫ノ齟齬ヲ見又契約條件等モ異ニスル爲地方側ニ奇異ノ感ヲ抱カシメアル例モアルヤニ聞キ及フモ陸軍トシテハ取敢ヘス各軍管區ニ對シ別紙ノ通牒指導致置タルニ付貴軍ニ於カレテモ既ニ指導セラレアルコトト存スルモ此ノ際更ニ兩者節調協力ニ關シ各鎮守府等ニ對シ然ルヘク指導相煩度

地方施設等取得ニ伴フ陸海軍節調ニ關スル件

通牒

昭和二十年五月七日

陸軍 次官

首題ノ件ニ關シテハ客月十九日陸密第一八四一號通牒其他ノ機會ニ於テモ既ニ要望致シ置キタル處ナルモ防衛分散竝ニ内地兵備等ノ強化徹底ニ伴ヒ地方施設等ノ取得モ將來益々増大ノ一途ヲ辿ルヘキハ必然的趨勢ニ有之ニ拘ラズ之カ陸海軍ノ節調ニ關

シテハ未タ遺憾ノ點有之即チ既ニ各地ニ於テ競合ヲ來シ兩者間ニ契約條件等ニ懸隔アル爲地方側ニモ奇異ノ感ヲ與ヘアルノ例モ聞ク中央トシテハ本件ノ地方的特質ニ鑑ミ成ルヘク各軍管區ニ於テ具體的ニ解決スルヲ至當トシ地方行政協議會ヲ介シ統制アル計畫的取得ヲ圖ラレ度意見ニ付之カ節調ニ關シ更ニ特段ノ善處方相成度

追テ海軍中央當局ニ對シテハ別紙ノ通牒致シアリ尙特ニ中央解決ヲ要スルモノアラハ直チニ處置スヘキニ付本件ニ關スル貴軍管區ノ實情並ニ貴見承リ度

軍務三第八七號

昭和二十年五月二十四日

海軍省軍務局長

各鎮守府、警備府、參謀長、海軍總隊、海上護衛各參謀長、各艦隊、參謀長

主要食糧配給上ノ不實在人口ノ整理及異動人口ノ把握協力ニ關スル件申進

政府ニ於テハ國內食糧需給調整ニ最善ノ期シ確實ナル配給人口把握ノ爲主要食糧配給上ノ不實在人口ノ整理竝ニ異動人口ノ明確化ニ關シ調査實施中ノ處海軍ニ於テモ左記ニ據リ之ニ協力スルコトニ定メラレタルニ付可然取計相成度

記

一 糧食給與ノ軍人軍屬ニシテ離現役、召集解除、轉勤等ノ異

動ニ依リ一般民需配給ニ移行スルトキハ當該廳長ニ於テ別紙
様式ニ依ル糧食給與停止證明書ヲ發行シ之ヲ本人ニ交付スル
モノトス

二 徵募、召集、採用等ニ依リ入隊（入隊、入校）シ又ハ軍人

軍屬轉勤等ニ依リ糧食ヲ給與スル場合ハ市區町村長ノ發行ス
ル轉出證明書ヲ徵シ民需配給ノ停止ヲ確認スルモノトス

三 部内各工作應勤務工員ニ對スル配給人口調査ニ關シテハ特
ニ正確ヲシムル様必要ナル措置ヲ講ズルモノトス

四 海軍關係部外工場事業場等ニシテ勞務特配アルモノニ對シ
テハ二重配給ノ絶滅、職種詐稱防止ニ關シ特ニ指導監督ヲ嚴
ニスルコト

（別紙添）

教育機密第二二八號

昭和二十年五月二十二日

關係各廳長殿

各種普通科練習生、飛行豫科練習生、講習員、
新兵等ノ卒業成績順序ニ關スル件申進

首題ノ件各學校規則、海兵團練習部規則、海軍練習航空隊規則
又ハ特技兵臨時講習及人事取扱規則等ノ規定ニ拘ラズ當分ノ間
左記ニ依リ處理スルコトニ定メラレ候

海軍省教育局長
海軍省人事局長
海軍航空本部總務部長

祕海軍公報 第五〇二二號 昭和二十年五月二十五日

記

左ノ標準ニ依リ「甲」「乙」「丙」ノ評語ヲ以テ區分表示ス

「甲」卒業成績優秀ナル者 卒業員數ノ約二五%

「乙」卒業成績「甲」ニ次グ者 卒業員數ノ約五〇%

「丙」卒業成績「乙」ニ次グ者 卒業員數ノ約二五%

軍密二機密第五四二號

昭和二十年五月二十四日

海軍省軍需局長
海軍航空本部長

關係各廳長殿

新製（修理）飛行機整備試飛行並ニ空輸用燃
料整理ノ件通牒

首題燃料（潤滑油ヲ含ム）自今左記ニ依リ整理相成度

記

一 第一〇一航空戰隊担任ノ新製機種

（イ）官領收迄（領收基地ヨリ供給基地迄ノ空輸ヲ含ム）ハ生
産廠社

（ロ）供給基地ニ於ケル整備試飛行並ニ供給基地ヨリ部隊迄ノ
空輸ハ第一〇一航空戰隊

二 其ノ他ノ機種及修理機

軍密二機密第一三六號（昭和十九年一月三十一日附）飛行機
空中輸送用燃料整理ノ件通牒ノ通

五七九

海功調機密第一〇號ノ五

昭和二十年五月二十四日

海軍功績調査部長

關係各所轄長殿

特攻隊員出撃者名簿送付ノ件照會

速賞實施ノ資料ト致度ニ付自今特攻隊員出撃ノ場合ハ速ニ出撃者名簿(別紙様式)一通當部宛送付相成度

(別紙添)

○雜 款

○開廳 開隊

官衙、部隊名	所在地	開廳、開隊月日	記 事
舞鶴海軍運輸部 敦賀支部	福井縣敦賀市寺町本妙寺内	四月九日	
同 支 部	鳥取縣西伯郡莟町祭一〇二	五月二五日	
同 酒田出張所	山形縣酒田市荒町五六	五月一日	電話 四七九
同 富山出張所	富山縣富山市東岩瀬町一八北所内	五月二五日	
田邊海兵團 (舊大阪海兵團田邊分團)	和歌山縣田邊市文里	五月一日	旅行願路 天王寺驛ヨリ阪和線經由 東和歌山驛ニテ紀勢西線 乗換紀伊田邊驛下車徒歩 約二十分
第三千二百十四 設營隊 (中森部隊)	鹿兒島縣嶺南郡 松山村	五月九日	旅行願路 都城ニテ志布志線ニ乗換 大隅松山驛下車徒歩 約五分

○赴任轉勤旅費ノ件

當司令部ヘノ轉勤者ハ鹿兒島縣掛指宿驛迄前金拂ノコトニ取計ハレ度

道テ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ佐世保市ナリ

(第五特攻戰隊司令部)

○訂正

五月十日附秘海軍公報雜款關合同海軍葬儀執行ノ項中「青森地方海軍人事部長」ヲ「大湊海軍人事部長」ニ訂正ス

○本日軍極秘海軍公報第一三八號(乙配付)發行セリ

配付先

- 關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
- 吳海軍工廠、關係各警備隊、第十一、川棚、大浦各突擊隊、
- 第三一、第一一九、第二二〇各震洋隊、關係各學校

(軍務三第八七號別紙様式)

(昭和二十年五月二十五日秘海軍公報)

糧食給與停止證明書

氏官等(身分)		生年月日	轉出先	轉出年月日	糧食給與停止年月日	記	事
田	名	昭和二十年五月十日	海軍少尉	昭和二十年五月十日	昭和二十年五月十日		

右ノ通糧食給與センコトヲ證明ス

昭和二十年十一月十四日

廳長 氏

名 印

Handwritten signature and stamp area.

1454

(海功調機密第一〇號ノ五別紙)

(昭和二十年五月二十五日祕海軍公報)

件名番號

特攻隊員出撃者名簿

所轄名

(現官)(職)(任) (用進殺年 月日)	氏名 (生年月日)	電報符 又 入籍番號	本籍地	現 有 勳 章	授同 月 日與上

備考 一 氏名ニハ振假名ヲ附シ舊氏名アルモノハ之ヲ附ス

二 官等ハ出撃當時ノモノヲ記入ス

1455

秘

海軍公報 第五〇二三號

昭和二十年五月二十六日(土) 海軍大臣官房

〇令 達

達第一一九號

大東亞戰爭海軍國庫納金納付手續特別例
昭和二十年五月二十四日

大東亞戰爭海軍國庫納金納付手續特別例

第一條 大東亞戰爭中海軍軍人及文官同待遇者ノ恩給法第五十條ノ規定ニ依ル國庫納金(以下單ニ國庫納金ト稱ス)ノ納付ニ付テハ本特別ニ依ル

本特別ニ規定ナキモノニ付テハ恩給法、同施行令、支出官事務規程及出納官事務規程ニ依ル

第二條 支出官及出納官海軍軍人及文官同待遇者ニ係給ノ支拂ヲ爲ストキハ國庫納金ノ額ヲ控除スルモノトス但シ海軍戰時特別給與規則第一條ノ七ノ規定ニ該當スル場合ヲ除ク

前項ノ規定ニ依リ控除シタル國庫納金ノ額ニ付テハ支出官事務規程第二十四條第二項及出納官事務規程第四十三條ノ規定ニ依ル事務ハ之ヲ行ハザルモノトス

第三條 支出官及出納官(支出官ノ任命シタルモノニ在リテハ當該支出官ニテ取纏メタル上)ハ毎年九月分俸給ヨリ前條第一項ノ規定ニ依リ控除シタル國庫納金ノ額ヲ十月末日迄ニ

海軍大臣官房
昭和二十年五月二十六日

左ノ區分ニ依ル支出官ニ之ヲ通報スルモノトス

一 一般會計及臨時軍事務特別會計ノ經費ニ係ルモノニ在リテハ海軍省經理局支出官

二 海軍火藥廠作業會計ノ經費ニ係ルモノハ第二海軍火藥廠支出官

三 海軍燃料廠作業會計ノ經費ニ係ルモノハ第三海軍燃料廠支出官

第四條 前條ノ通報ヲ受ケタル支出官ハ其ノ通報ニ依ル國庫納金ノ額ト自己ノ控除シタル國庫納金ノ額トヲ集計シタル額ノ十二倍ニ相當スル金額ヲ翌年三月末日迄ニ各當該會計(臨時軍事務費ニ在リテハ一般會計)ノ歳入ニ振替拂込ヲ爲スモノトス

第五條 國庫納金ノ歳入又ハ收入ニ係ル報告及計算證明手續ハ前條ノ規定ニ該當スル歳入徴收官ヲ除クノ外之ヲ省略スルモノトス

第六條 本令施行ノ細目ニ關シテハ海軍省經理局長ノ定ムルニ依ル

附則

本令ハ昭和二十年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和二十年度ニ限リ第四條中十二倍トアルハ十倍トス

海軍公報 第五〇二三號 昭和二十年五月二十六日

五八一

1456

官房需第九〇號

當分ノ開航空隊ニ於テ練習中ノ學生及練習生ニシテ練習機ニ搭乘スル場合ニハ海軍給與令施行細則ノ規定ニ依ル航空被服ニ代ヘ左ニ依リ略式航空被服ヲ貸與スルコトヲ得
昭和二十年五月二十四日

一 略式航空被服ノ製式

海軍大臣

品名	製式	材	料	寸法	區分
航空略帽	航空帽ニ準ズ	表 裏	褐青色布又ハ黒ゴム引布 フラネル	自 至	一號 三號
航空略衣	航空夏衣ニ準ズ	表 裏	褐青色布 フラネル	自 至	一號 三號
航空略袴	航空夏袴ニ準ズ	表 裏	褐青色布 フラネル	自 至	一號 三號
航空略手袋	航空手袋ニ準ズ	手部	毛織又ハ毛絹布 擬革又ハゴム引布	自 至	二號 三號
航空略靴	航空夏靴ニ準ズ	底 爪先飾及月型革 其ノ他	ゴム 厚布 擬革又ハ茶褐色	現制航空靴 寸法ニ同シ	

二 貸與範圍

航空隊ニ於テ練習中ノ學生及練習生但シ實用練習機及實用機ニ搭乘スル場合ヲ除ク

官房經機密第三三〇號
大東亞戰爭雇員傭人扶助金支給特例中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十四日

海軍大臣

第一條中「戰地」ノ下ニ「準戰地」ヲ加フ
第二條中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ
「又ハ準戰地外」ヲ加フ
第五條 削除
第六條ノ四中「所屬長官ノ認許ヲ受ケ」ヲ削ル
第八條中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トス
別表備考第一號中「戰地」ノ下ニ「又ハ準戰地」ヲ加フ

6月9日

附則

本令ハ昭和二十年三月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 機密會計法規類集二二一頁

官房需第三〇〇號

大東亞戰爭中造船造兵監督官令第一條ノ職員(艦營需品、燃料及衣糧關係ノ者其ノ他所要ノ者)ハ同條第一項ノ規定ニ準ジ艦營需品、港用品、燃料、被服及糧食ニ關スル事項ヲ處理スベシ造船造兵監督長ハ前項ノ事項ニ關シテハ海軍省軍需局長ノ指示ヲ承クルモノトス

昭和二十年五月二十五日

海軍大臣

○ 通 牒

經給第九三號

昭和二十年五月二十二日

海軍省 經理局長

關係各廳長 殿

國庫納金納付手續特例ニ關スル件通牒

今般達第一一九號ヲ以テ大東亞戰爭海軍國庫納金納付手續特例(以下特例ト稱ス)ヲ定メラレ候處之ガ計算證明等ハ左記ニ依ル義ト了知相成度

記

一 俸給支出(支拂)ノ計算證明書類ニハ國庫納金ノ額ハ記載セズ本人ニ實際支給シタル俸給ノ額(納金額ヲ控除シタル額)ノミヲ記載スルモノトス

二 特例第三條ノ通牒ハ別紙様式ニ依ル

(別紙添)

航本兵無線機密第四六三號

昭和二十年五月二十四日

海軍航空本部 總務部長

第一、第二、第十一、海軍航空廠總務部長

第十二、第六十一、海軍航空廠總務部長

第十三、第二十二、第三、海軍航空廠總務部長

第十四、第四十一、第五十一、海軍航空廠總務部長

第十五、海軍航空廠總務部長

第十六、海軍航空廠總務部長

第十七、海軍航空廠總務部長

第十八、海軍航空廠總務部長

第十九、海軍航空廠總務部長

第二十、海軍航空廠總務部長

第二十一、海軍航空廠總務部長

第二十二、海軍航空廠總務部長

第二十三、海軍航空廠總務部長

第二十四、海軍航空廠總務部長

第二十五、海軍航空廠總務部長

第二十六、海軍航空廠總務部長

第二十七、海軍航空廠總務部長

第二十八、海軍航空廠總務部長

第二十九、海軍航空廠總務部長

第三十、海軍航空廠總務部長

第三十一、海軍航空廠總務部長

第三十二、海軍航空廠總務部長

第三十三、海軍航空廠總務部長

第三十四、海軍航空廠總務部長

第三十五、海軍航空廠總務部長

首題ノ件當分ノ間左記ニ依リ處理ノコトニ定メラレ候條可然取計相成度

記

一 航空機(實用機ノミ)供給替ノ場合
 (イ) 無線兵器ハ裝備ノ儘供給替ス
 (ロ) 第十航空艦隊麾下航空隊ニ於テ供給替ニ依リ殘存機ニ裝備スベキ無線兵器ニ不足ヲ生ジタル場合ハ最寄海軍航空廠ヨリ供給ス

二 航空機貸與ノ場合
 部外ニ航空機ヲ貸與スルトキ無線兵器ノ貸與ハ兵裝完備ト明記スル場合ノ外別ニ訓令セラレ此ノ場合無線兵器工事ハ貸與スベキ航空廠ニ於テ施行ス

三 要修理機還納ノ場合
 (イ) 無線兵器ハ要修理機(實用機ノミ)ニ裝備ノ儘還納ス但シ要修理機ノ破損大ニシテ修理ノ見込ナシト認メラル場合ハ之ヲ取外シ最寄海軍航空廠ニ還納スルト共ニ其ノ品名數量及事由ヲ要修理機還納スベキ航空廠ニ通知ス
 (ロ) 前號ニ依リ還納受シタル無線兵器ハ檢査ノ上整備ス

四 要修理機ノ修理完成ノ場合
 修理施行應修理完成セル實用機ヲ供給セントスルトキハ昭和十九年七月官房空機密第十四號ノ二六一艦船部隊特設艦船部隊基準兵器通信長主管(航空)ニ依リ所定ノ無線兵器ヲ裝備ノ上供給ス但シ當分ノ間左ノ實用機ニ對シテハ上段兵器ノ代リ下段ノ兵器ヲ裝備ス

秘海軍公報 第五〇二三號 昭和二十年五月二十六日

五八三

機	基準兵器簿ニ依ル兵器	代用スベキ兵器
天山	二式空三號無線電機 改一	九六式空三號無線電機 改二又ハ十九試空三號無線電機
零水	九六式空三號無線電機 改一	九六式空二號無線電機 改二
貨物輸送機	同	同
一式陸攻	同	同
二式飛行艇	二式空三號無線電機 改一	九六式空四號無線電機 改三又ハ十九試空四號無線電機
晴空	同	同

○雜 款

○銓衡試験問題發送

昭和二十年度前期^{高等科}普通科^{水雷}潜航術^{操縦}内火^機特技章付與銓衡試験問題電機

(試験期日 昭和二十年六月一日)

右五月五日左記ノ通發送済ニ付未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部若ハ海軍潜水學校ニ請求相成度

記

- 一 單獨試験實施豫想ノ向ニハ直送
- 二 聯合試験用ハ各海軍人事部宛送付
- 三 聯合試験参加ノ豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試験参加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試験用若干各海軍人事

部宛送付済

(海軍潜水學校)

○事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始月日	電話	記事
第百四號海防艦 艦長事務所	長崎市三菱重工業株式會社 海防艦艦長事務所内	五月三日		
第百五號警隊	横須賀海軍施設部教導部 班内	五月五日		
泉州潜水促進班	大阪府泉南郡多奈川町楠第 二工場海軍監督官事務所内	五月七日		

○正誤

四月四日秘海軍公報第四九七五號令達欄内令第二六四號中「第百九十一號、」ハ「第百九十一號哨戒特務艇、」ノ、五月十九日同第五〇一六號令達欄内令第四一九號中「第百六十四號、」ハ「第百六十四號哨戒特務艇、」ノ、「第百七十四號、」ハ「第百七十四號哨戒特務艇、」ノ執マ誤

○本日海軍公報發行セズ

(經給第九三號別紙)
件名番號

昭和 年 月 日

(昭和二十年五月二十六日秘海軍公報)

(特例第三條所定) 支出官殿

國庫納金額通報

支出官(出納官吏) 職 氏 名 團

昭和 年 九月 分

臨時軍事費			會計名	區分	人員	金額	備考
合計	文官納金	武官納金					
	人	人					

1460

秘

海軍公報 第五〇二四號

昭和二十年五月二十八日(月) 海軍大臣官房

○令 達

内令第四四〇號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月十七日

要訂正
6月9日

海軍大臣

第十六潜水隊ノ項中「波號第四百四」ノ下ニ「波號第四百五」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第四四二號

特設船舶警戒部中左ノ通改正セラル

昭和二十年五月二十日

6月9日

海軍大臣

別表中「新潟」ヲ「敦賀」ニ改メ「門司」ノ上ニ「新潟」ヲ、「小樽」ノ下ニ「函館、伏木」ヲ、「博多」ノ下ニ「大連」ヲ、「基隆」ノ上ニ「境、名古屋」ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ二頁参照)

内令第四四三號

特設船舶警戒部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

第五條第二號ヲ削ル

第六條中「新潟」船舶警戒部新潟支部ヲ

函館	船舶警戒部函館支部
新潟	船舶警戒部新潟支部
伏木	船舶警戒部伏木支部
敦賀	船舶警戒部敦賀支部
境	船舶警戒部境支部
名古屋	船舶警戒部名古屋支部
博多	船舶警戒部博多支部
博多	船舶警戒部博多支部
大連	船舶警戒部大連支部

6月9日

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ四頁参照)

秘海軍公報 第五〇二四號 昭和二十年五月二十八日

五八五

1461

内令第四四四號

第八十七號海防艦

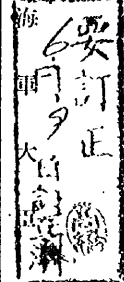
右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

舞鶴鎮守府在籍

第八十七號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年五月二十日



内令第四四五號

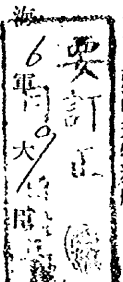
第二號哨戒特務艇

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定ム

第七十九號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

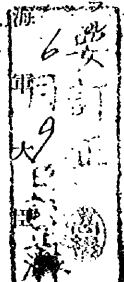
昭和二十年五月二十日



内令第四四六號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十日



第一監視艇隊ノ項中「第一號哨戒特務艇」ノ下ニ「第二號哨戒特務艇」ヲ加フ

第二監視艇隊ノ項中「第六十五號哨戒特務艇」ノ下ニ「第百

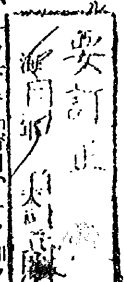
七十九號哨戒特務艇」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五二頁参照)

内令第四四七號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十日



第四十一驅逐隊ノ項中「冬月」ノ下ニ「宵月」ヲ加フ

第四十三驅逐隊ノ項中「樺」ノ下ニ「椎」ヲ加フ

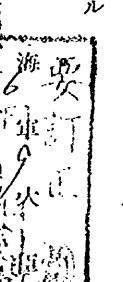
第五十二驅逐隊ノ項中「楓」ノ下ニ「梨、萩」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第四四八號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十日



第十一海防隊ノ項中「第五十七號」ノ下ニ「第七十五號」ヲ加フ

第二十一海防隊ノ項中「第九十四號」ノ下ニ「第九十八號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第四四九號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

第一監視艇隊ノ項中「長運丸」ヲ削ル
第二監視艇隊ノ項中「神津丸」ヲ削ル
第三監視艇隊ノ項中「第一雲洋丸」ヲ削ル

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第四五〇號

汽船長運丸

汽船第二雲洋丸

汽船神津丸

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メテラレタル處之ヲ解スル

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

内令第四五一號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管左ノ通定ム

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

船名	特設艦船種別	所管
汽船長運丸		
同 第一雲洋丸	特設運送艦	横須賀鎮守府
同 神津丸		

内令第四五二號

昭和十八年内令第一八三三號別表中

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

第三十二突擊隊ノ項魚雷艇ノ欄「第八百四十號(舊)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第四五三號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通定正ス

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

第二魚雷艇隊ノ項中「243」及「242」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)

内令第四五四號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

同 第八百四十號魚雷艇

同 第二十六號軍艇

同 第二十四號軍艇

同 第二十三號魚雷艇

同 第二十二號魚雷艇

同 第二十一號魚雷艇

秘海軍公報 第五〇二四號 昭和二十年五月二十八日

五八七

1463

昭和二十年五月二十日

海軍大臣

○ 雜 款

○從軍年加算付與ニ關スル件
今般官房人第一三八號ヲ以テ從軍加算ニ關スル件改正セラレ昭和十九年七月十日以降當隊教育中ノ學生、生徒、各練習生、新兵、内火術(自動車班)講習員ニ對シテモ直接防衛ニ關スル勤務ニ從事シタルモノニ該當シ戰務加算(一月ニ付一月)ヲ付與セラルコトト相成候條現貴所轄勤務員ニ付調査ノ上左記ニ依リ履歷記註恩給年加算通知等可然處理相成度

自昭和二十年五月一日 第二相模野海軍航空 職務丁 第二相模野海軍航空
至昭和二十年五月一日 隊ニテ

(第二相模野海軍航空隊)

今般官房人第一三八號ニ依リ當隊練習生並ニ新兵教程中ノ者ニ對シ昭和十九年七月十日ヨリ戰務丁加算セラルコトト相成候ニ付テハ右期日以後貴廳ニ轉勤セル者ノ履歷書(表)左記ニ依リ記註ノ上恩給年加算通知等可然處理相成度

記

自昭和二十年二月二十八日 大村海軍航空隊 諫早分遣隊ニテ
至昭和二十年二月二十八日 戰務丁 大村空諫早分
自昭和二十年三月一日 諫早海軍航空隊ニテ 戰務丁
至昭和二十年三月一日 諫早空

(諫早海軍航空隊)

今般官房人第一三八號(三月十五日海軍公報)ニ依リ大竹警備隊及同柳井支隊勤務員(潜水學校及同分校職員、學生、練習生、講習員)ニ對シ昭和十九年七月二十日以後同勤務期間戰務加算(二月ニ付一月)ヲ付與セラルコトト相成候ニ就テハ現貴所轄勤務員ニ對シ前記該當者ヲ調査ノ上左ノ通處理方取計相成度

一 履歷記註

- (イ) 大竹警備隊勤務員(潜水學校職員、學生、練習生、講習員)
自 年 月 日 大竹警備隊ニテ戰務丁
- (ロ) 大竹警備隊柳井支隊勤務員(潜水學校分校職員、練習生、講習員)
自 年 月 日 大竹警備隊ニテ戰務丁

二 海軍省人事局長又ハ所屬人事部長ニ對シテハ規定ニ依ル恩給年加算通知相成度
(大竹警備隊、潜水學校)

(大竹警備隊、潜水學校)

○ 正誤

五月十四日附海軍公報雜款欄「海軍氣象學校」ハ

「海軍氣象學校」ノ誤
(舊海軍航海學校分校)

○本日軍機海軍公報第一三九號(甲配付)發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第五〇二五號

○令達

○通牒

內令第四三九號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月十六日

第三十

輸送隊ノ項中「第二十號」ノ上ニ「第十九號」ヲ加

(內令提要卷一、七四頁参照)

內令第四四五號

(軍極秘海軍公報第一四〇號(乙配付)ニ掲載)

內令第四五六號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正

昭和二十年五月二十日

海軍大臣 官印

特務艇、魚雷艇第五百一十一號型ノ項中「、第五百五十二號、第五百五十三號」ヲ、同第五百四十一號型ノ項中「、第五百四十三號」ヲ、同第五百三十八號型ノ項中「、第八百四十號」ヲ、同十號型ノ項中「、第二十四號、第二十六號」ヲ削ル

(內令提要卷三、四三頁参照)

秘海軍公報 第五〇二五號

昭和二十年五月二十九日

昭和二十年五月二十九日

海軍大臣 官印

6.11

官房軍機密第五三六號

昭和二十年五月二十八日

海軍省 副官

關係各廳長殿

敵落下傘部隊等發見ノ通報ヲ内容トスル通信ノ取扱ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ通信院ヨリ左記ノ通通知有之候條可然取計相成度

記

防空監視ニ從事スル者ヨリ發スル敵ノ落下傘部隊、空挺部隊及上陸部隊發見ノ報告ヲ内容トスル通信竝ニ機雷監視ニ從事スル者ヨリ發スル敵ノ機雷發見ノ報告ヲ内容トスル通信ハ特ニ防空通信規則ニ依ル情報トシテ取扱フコトニ定メラレ候條了知相成度

○雜 款

○閉隊 閉隊

官符、部隊名 所在地 閉隊、開隊、閉隊、開隊、閉隊、開隊、閉隊、開隊、閉隊、開隊

五八九

官・衙名	移轉先	移轉月日	記	事
佐世保海軍施設部 佐世保海軍施設部 佐世保海軍施設部	鹿兒島縣鹿屋市大字中名字跡跡地	五月一日		
船舶警戒部上海支隊 (事務所)	第一海軍軍需部	五月八日		
長崎港灣警備隊	長崎市大浦町一三番地	五月四日	武官府船警支隊ト近接ス	
○廳舎移轉				
第十二海軍航空廠本部	大分市大字瀧尾字岩屋	同	新本部地區ハ總務科、會計科ノ一部ナリ	科、會計科ノ一部ナリ
佐世保海軍軍需部 鹿兒島支隊	鹿兒島市外伊敷下伊敷三二五九	五月二〇日	旅行順路 鹿兒島驛又ハ西鹿兒島驛ヨリ市電伊敷下車徒歩約十分	
○事務開始				
事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	記
第五百七十一、第五百七十二、第五百七十三、第五百七十四設隊	大湊海軍施設部内	五月二五日		
第三百十六設隊	廣島縣吳市吳海軍施設部内	同		
字佐海軍航空隊 殘務整理班	大分縣宇佐郡柳浦字西海軍航空隊宇佐基地内	同		郵便物發送先見佐乙
特設運送班 殘務整理班	吳海軍經理部内 吳鎮守府整理部内	五月七日		郵便物發送先見佐乙

○本日軍報秘海軍公報第一四〇號(乙配付)發行セリ
配付先
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠

○本日海軍公報發行セズ

編送檢務整理班
同
五月二日
同
山口隊

秘

海軍公報

第五〇二六號

昭和二十年五月三十日(水)
海軍大臣官房

○令 達

内令第四二八號(軍機秘海軍公報第一四一號(乙配付)ニ掲載)

内令第四二九號(軍機秘海軍公報第一四〇號(乙配付)ニ掲載)

内令第四六〇號

特設船舶救難本部令中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十五日

第二條中「撤收」ノ下ニ「竝ニ重要港灣及河川ノ水路啓閉(機雷掃海ヲ除ク)」ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ五頁参照)

内令第四六一號

特設船舶救難本部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十五日

第七條第五號中「沈船處理」ノ下ニ「竝ニ重要港灣及河川ノ水路啓閉(機雷掃海ヲ除ク)ニ關スル作業」ヲ加フ

(内令提要卷一、三八ノ七二ノ七頁参照)

内令第四六二號

鎮守府及警備府警備區中左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十五日

吳鎮守府ノ項中「宮崎縣、」及「宮崎縣(有明灣ヲ除ク)、」ヲ削ル

佐世保鎮守府ノ項陸上區畫ノ欄中「鹿兒島縣」ノ下ニ「宮崎縣」ヲ加ヘ同項海上區畫ノ欄中「(有明灣)」ヲ削ル

(内令提要卷三、一頁参照)

内令第四六三號

鎮守府警備區ノ特例ニ關スル件左ノ通改正ス

昭和二十年五月二十五日

當分ノ間佐世保鎮守府ノ警備區中宮崎縣(有明灣ヲ除ク)ノ海上警備ハ吳鎮守府ノ所管トス

(内令提要卷三、一頁参照)
(昭和二十年内令第四六二號參照)

官房機密第三三二號

戰時軍人軍屬旅費特例中左ノ通改正ス

秘海軍公報 第五〇二六號 昭和二十年五月三十日

五九一

1467

昭和二十年五月二十八日

海軍大臣

第十一條ノ五ヲ第十一條ノ六トシ以下第十一條ノ九迄順次繰下

グ 第十一條ノ五 家族移轉料支給上六歳未満ノ家族一人ヲ超ユル

場合ハ海軍内國旅費規則第五十二條第一項第二號但書ノ規定

ニ拘ラズ其ノ一人ヲ超ユル員數ニ付一人毎ニ其ノ移轉ノ際ニ

於ケル本人相當ノ鐵道賃ノ二分ノ一ヲ支給スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和二十年五月一日以後ノ

(參照) 海軍機密會計法規類集三一九頁

○ 雜 款

○本日軍機秘海軍公報第一四一號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第五〇二七號

昭和二十年五月三十一日(木)
海軍大臣官房

○令 達

内令第四六四號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

要訂正
海軍大臣官房

第十七驅逐隊ノ項中「磯風、」ヲ削ル

第四十一驅逐隊ノ項中「宵月、」ノ下ニ「夏月、」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第四六五號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

要訂正
海軍大臣官房

第三十四潜水隊ノ項中「呂號第四十二、」
「呂號第四十九、」

及「呂號第五十六、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第四六六號

海防隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

秘海軍公報 第五〇二七號 昭和二十年五月三十一日

海軍大臣

第一海防隊ノ項中「能美、」ヲ削ル
第十一海防隊ノ項中「第一號、第五號、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七三頁参照)

内令第四六七號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

要訂正
海軍大臣官房

第三十一輸送隊ノ項中「第四百十六號、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第四六八號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年五月二十五日

要訂正
海軍大臣官房

第十一驅逐隊ノ項中「第七號、」ヲ削ル

第二十一驅逐隊ノ項中「第十七號、」ヲ削ル

(内令提要卷一、七六頁参照)

五九三

内令第四六九號

横須賀鎮守府警備海防艦

第五十六號海防艦

佐世保鎮守府警備海防艦

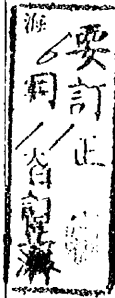
第一百八十六號海防艦

舞鶴鎮守府警備掃海艇

第二十號掃海艇

右役務ヲ解カル

昭和二十年五月二十五日



内令第四七〇號

吳鎮守府在籍

驅逐艦 磯子風

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

呂號第三十一潛水艦

舞鶴鎮守府在籍

呂號第四十一潛水艦

呂號第四十九潛水艦

呂號第五十六潛水艦

右帝國潛水艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

海防艦 御藏

海防艦 能美

第三十一號海防艦

第三十三號海防艦

第五十六號海防艦

吳鎮守府在籍

第一號海防艦

第五號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 男鹿

第十八號海防艦

第二十五號海防艦

第八十六號海防艦

右帝國海防艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

第四百四十六號輸送艦

右帝國輸送艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

第十二號掃海艇

舞鶴鎮守府在籍

第二十號掃海艇

右帝國掃海艇籍ヨリ除カル

事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	記事
○事務開始				
第十一海軍航空廠 自動車部海田市工場	廣島縣安藝郡海田村第 十一海軍航空兵器部海 田市工場内	五月二五日		
同	大阪府西淀川區大和田町 第十一海軍航空補給部 大阪補給部内	同		
波羅第二十七潜水 艦艇員事務所	佐世保海軍工廠内	五月四日		
第二十一、第二十 二號輸送艦艇員 事務所	吳海軍工廠内	五月六日		
海防艦美濃丸員 事務所	横須賀市谷戸六番地浦賀 船渠株式會社浦賀造船所 内	五月九日		
第五百二設營隊	横濱市戸塚區中和町横 須賀海軍施設部設營 班内	五月二〇日		

○雜 款

吳鎮守府在籍
第七號 驅潛艇
佐世保鎮守府在籍
第十七號 驅潛艇
右帝國驅潛艇籍ヨリ除カル
昭和二十年五月二十五日
海軍大臣

○轉勤者赴任先

第六〇一海軍航空隊並ニ所屬飛行隊へノ轉勤者ハ左記ニ依リ赴任セシメラレ度

第六〇一海軍航空隊
戰團第三〇八飛行隊
戰團第三〇〇飛行隊
攻撃第一飛行隊
茨城縣東茨城郡橋村百里原航空基地
(參宮線小川驛下車)

追テ旅費ハ前金拂、家族移轉料支給ノ上勤務地ハ愛媛縣松山市ナリ爲念

(第六〇一海軍航空隊)

當分ノ間當隊へノ轉勤者ハ鹿兒島縣肝屬郡中良町中良航空基地(古江線東中良驛下車徒歩約一時間)ニ向ケ赴任セシメラレ度

(第九三一海軍航空隊)